みにくいアヒルのこ

福娘童話集　きょうの世界昔話ばなし

おはなし　ゆきのまち幼稚園

おはなしCDのご注文はQRコード

おなまえ

福娘童話集　至本シリーズ 22

366日の昔話
にち　おかしばなし
まいにち　どう　しかた
読む　聞く　童話集

おかしおかし、あるところに、おおきな ふるいおやしきが ありました。

そのおやしきの にげわの 中で、一わの アヒルの おかあさんが 卵の 中の タマゴを あたためていました。

やがて タマゴが 一つずつ われると、中からは きいろい いろとりた かわいい ひなたちが かおを 出します。

ですが、卵の 中に いちばん大きな タマゴだけが、なかなか 生まれてきません。

こばらくたって、やっと タマゴに わって 出てきたのは、たいそう からだの 大きい、おおきい ひなどりでした。

おおきい アヒルの子は どんくいっても いじめられ、つつかれて、わる口を たたかれます。

はじめのうちは、おおきい アヒルの子を かばっていた おかあさんも、しまいには、

「ほんとうに おおきい 子。いっそ、どこか とおいところへ いってくれたらなあ」

と、ためいきを つくように なりました。

それを きいた おおきい アヒルの子は、かなしくなって、みんなの まえから にげだしてしまいました。

あてもなく とびだしましたが、どこにいっても きらわれます。

アヒルの子は 人目に つかない ばしょを えらんで ねおき、おきれば また にげつづけました。

きせつは いつのまにか あきに なりました。

2

そんなある日、おおきい アヒルの子は、これまで 見たことも ないような うつくしい ものを 目に しました。

それは はくちょうの むれでした。

ながく しなやかな くびを のばし、まぶしい ばかりの 白い つばさを はばたいて、はくちょうたちは あたたかい くにへと とんでいくところでした。

3

アヒルの子は あつけに とられて、そのうつくしい とりたちが、空の かなたへ さっていくのを みおくっていました。

「あんなとりに なれたら、どんなに かしあわせだろう。いや、アヒルの なかまに とめ 入れないくせに、そんなことを かんがえる とうさんだ」

ふゆが きて、あたりは こおり はりはじめました。

アヒルの子は、下への こげおに じっと うずくまって、きびしい さむさに たえるのでした。

そのうちに、お日さまは こだいに あたたかさを まし、ヒバリが うつくしい うたを うたいはじめます。

ついに なるが きたのです。

アヒルの子は からだが うきうきしはじめると、つばさを はばたいてみました。

すると、どうだ、ぼくの からだが うそのように ちからづいて はやく およぐことが できるではないか。

「あぁ、とんだ ばくちゃに なったんだ」

アヒルは あちゃこち はばたくと、やがて あおりに まいおりました。

そのとき、おおぞらに いっせいに ちかづいて きたのです。

福娘の携帯向けサイト

・福娘童話集
（世界各日本の昔話）
・366日への旅
（記念日・誕生日・誕生日）
・こどもの悩み相談所
（こどもの悩み解決・対応など）
・世界60秒めぐり
（世界の国々の紹介）

QRコード

http://fukumusume.com

福娘童話集　至本シリーズ

・ももたろう　・つるのおんがえし　・かちかちやま
・くもとりじいさん　・青ずきんちゃん　・おにくいアヒルのこ
・ブレーメンのおんがくたい　・シンデレラ　・にんぎょひめ
・花咲じいさん　・赤かいはるくま　・花のおんじょん
・金太郎　・シンデレラ　・ほだかの王さま
・浦島太郎　・ひらかさひめ　・ハクのお母さおばさんだい
・かさじぞう　・マッチ売りの少女　・ヘンゼルとグレーテル
・いっすんぼうし　・メスだってさうイオン　・アリバいくる40人の盗賊
・ものぐさじろべえ　・アリバイーの冒険　・つりきたワメ
・しずかちゃん　・眠れる森の美女　・北風と太陽

5

ぬまの ほとりに、アヒルの こどもたちが あつまって、みんなで ゆかいに あそんでいました。

そこへ、ぬまの 上を 四羽の 大きな 鳥が、V字の 形を つくって とんでいるのを、おおぜいの アヒルの こどもたちが 見つけました。

「あ、とりだ。とりだ。とっても きれいな とりだ。ぼくたちも あんなに とべたら いいなあ」

アヒルの こどもたちは、口々に さけびました。

6

あの 四羽の 鳥は、白鳥と いう 名の 鳥で、とても 美しい 鳥でした。

アヒルの こどもたちは、白鳥に あこがれて、「あの とりに なりたい」と、思うのでした。